

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

| | | | |
|------|--|--------|---------------|
| 施設名称 | 幸区第2グループ(南加瀬・小倉・北加瀬) | 評価対象年度 | 平成27年度 |
| 事業者名 | ・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12 | 評価者 | 青少年支援室長 |
| 指定期間 | 平成23年4月1日～平成28年3月31日 | 所管課 | 子ども未来局 青少年支援室 |

2. 事業実績

| 利用実績 | H26 | | H27 | | H26 | | H27 | |
|-----------------------------|---|---------|------------|------------|---------|-------|-----|--|
| | 1 南加瀬子ども文化センター ①年間延べ利用者数 | 33,128人 | 38,676人 | ②年間延べ利用団体数 | 648団体 | 667団体 | | |
| 2 南加瀬小学校わくわくプラザ ①登録者数 | 181人 | 193人 | ②年間延べ利用者数 | 11,303人 | 11,841人 | | | |
| 3 夢見ヶ崎小学校わくわくプラザ ①登録者数 | 177人 | 188人 | ②年間延べ利用者数 | 12,697人 | 13,976人 | | | |
| 1 小倉子ども文化センター ①年間延べ利用者数 | 28,024人 | 28,227人 | ②年間延べ利用団体数 | 272団体 | 252団体 | | | |
| 2 小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数 | 232人 | 241人 | ②年間延べ利用者数 | 15,057人 | 14,827人 | | | |
| 3 東小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数 | 209人 | 241人 | ②年間延べ利用者数 | 14,414人 | 17,192人 | | | |
| 1 北加瀬子ども文化センター ①年間延べ利用者数 | 30,993人 | 29,585人 | ②年間延べ利用団体数 | 194団体 | 132団体 | | | |
| 2 日吉小学校わくわくプラザ ①登録者数 | 451人 | 523人 | ②年間延べ利用者数 | 27,509人 | 32,259人 | | | |
| 収支実績 | 単位:円 1 収入 指定管理料 145,393,416 2 支出 人件費 117,705,929 管理費 12,961,144 事務経費 8,065,939 その他経費 4,698,114 合計 143,431,126 3 差引 1,962,290 | | | | | | | |
| サービス向上の取組 | 運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。 | | | | | | | |

3. 評価

| 分類 | 項目 | 着眼点 | 配点 | 評価段階 | 評価点 |
|---|--------------------------------|---|----|------|-----|
| 事業の推進 | 事業推進 及び 事業成果 | 順調に事業の推進が図られているか | 10 | 4 | 8 |
| | | 事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか | | | |
| | | 子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか | | | |
| | | わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか | | | |
| (評価の理由) 幸区内の子ども文化センター6館の合同事業として実施した「さいわいキッズシティ」やドッジボール大会、「日吉の「わっ」」事業、南加瀬子ども文化センターにおける「ミニ緑日」等でのボランティア参加等、各種イベント実施の際、近隣の中学生がボランティアとして参加する土壌ができています。「こ文カレーフエス2015」等の中学生・高校生向け行事を開催したことから、南加瀬子ども文化センターにおいて、中学生の利用が58館中、2位となり、中学生の利用数大幅に増えるなど、年間の利用者数が増えている。 | | | | | |
| 収支計画・実績 | 適切な金銭管理・会計手続 効率的・効果的な支出 | 適切な会計処理及び金銭管理をしているか | 5 | 3 | 3 |
| | | 計画に基づき適切な支出をしているか | 5 | 3 | 3 |
| | | 効率的な執行等、経費縮減に具体的に取組んでいるか | | | |
| | | サービスの水準を確保しているか | | | |
| 支出に見合う効果が得られているか | | | | | |
| (評価の理由) 会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取り組みによる経費削減を図った。 | | | | | |

| | | | | | |
|---|---------------------------------|--|----|---|---|
| サービス向上及び業務改善 | 施設・事業の広報 | 施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか | 5 | 3 | 3 |
| | 利用者への対応 | 利用者に対するサービスが適切にされているか | 5 | 3 | 3 |
| | | 特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか | | | |
| | 運営協議会の実施 | 子ども文化センター運営協議会を実施しているか | 5 | 3 | 3 |
| | 保護者懇談会の実施 | わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか | 5 | 3 | 3 |
| | 学校及び行政機関との連携 | 事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか | 10 | 4 | 8 |
| 利用者ニーズ | 利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか | 10 | 4 | 8 | |
| <p>(評価の理由) 施設・事業の周知については、広報誌やインターネット、ラジオ等、様々な媒体を活用した広報を行っている。利用者への対応については、マニュアルに基づき誠実に応対し、クレーム内容を職員内で共有するなど、適切な対応を行っている。運営協議会及び保護者懇談会の実施については、計画通り開催し、会場でされた意見等については事業実施の際、反映するよう努めている。学校及び行政機関との連携については、運営協議会や区内の青少年育成団体と連携した「子ども文化センターまつり」の開催、地域ボランティアの協力を得ながら、年間を通じて活動した「加瀬っこ農園」の実施等、地域との連携が密に行われていること、中学生の利用が突出している南加瀬子ども文化センターにおいて、日頃から学校と連携し、来館する中学生に個別対応を行っている。利用者ニーズについては、事業実施後のアンケートや館内設置の意見箱等から適宜把握しており、実行計画を作成し、ぬりえ大賞の実施における改善や図書購入に活かすなど、可能なものから順次対応している。</p> | | | | | |
| 組織管理体制 | 適正な人員配置 | 川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか | 10 | 3 | 6 |
| | | 子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか | | | |
| | | 川崎市公契約条例を遵守しているか | | | |
| | 職員の研修体制 | 職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む) | 10 | 4 | 8 |
| 個人情報等の取扱 | 個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか | 5 | 3 | 3 | |
| <p>(評価の理由) 適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。特に、幸区内の子ども文化センターは中学生の利用が多いことから、区合同で「不登校児対応研修」、グループとして「中学生対応研修」を行う等、更なる研鑽を行っていた。個人情報等の取扱については、マイナンバー制度開始に伴う個人情報の管理についても適切に対応しており、情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。</p> | | | | | |
| 適正な業務実施 | 施設・設備の保守管理 | 安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか | 5 | 3 | 3 |
| | 利用者の安全確保 | 利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか | 5 | 3 | 3 |
| | | 事故等が発生した場合に適切な対応をしているか | | | |
| | | 感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか | | | |
| | 防犯対策及び災害時の対応 | 施設の防犯のための工夫をしているか | 5 | 3 | 3 |
| | | 災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか | | | |
| 災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか | | | | | |
| <p>(評価の理由) 子ども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。利用者の安全確保に向け、グループ全職員に普通救命講習の受講を義務付け、有事に備えるとともに、財団作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行っている。防犯対策及び災害時の対応として、館ごとに災害時対応マニュアルを毎年度作成し、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。</p> | | | | | |

4. 総合評価

| | | | |
|-------|----|-------|---|
| 評価点合計 | 68 | 評価ランク | C |
|-------|----|-------|---|

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

子ども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に長年に渡り携わってきた経験を活かし、安定した施設運営を実施している。各種イベントを実施する際には、子ども実行委員が自ら企画・運営できるようなサポート体制を取っており、特に、グループとしての子ども運営会議「ハッピーミーティング」を設け、グループ事業の企画から運営までを子どもたちが中心になって行ったことは、子ども文化センターの目的である、青少年の健全育成・社会参加に大きく貢献していると言える。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、職員と子どもが顔の見える関係を築き、中高生を含めた様々な年代の子どもたちにとって、居心地のよい場となるよう努めてもらいたい。また、協定書等の規定に従い、会計に関する規定の整備等を適正に実施してもらいたい。